

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2070102948		
法人名	医療法人コスモス		
事業所名	グループホームコスモスさいなみ		
所在地	長野県長野市小島田町1143-3 (電話) 026-254-6780		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年9月24日	評価確定日	平成20年10月9日

【情報提供票より】 (平成20年 9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 1月 17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤14人, 非常勤 1人,	常勤換算15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		

(4) 利用者の概要 (平成20年 9月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	1	要介護 2	5		
要介護 3	10	要介護 4	2		
要介護 5	0	要支援 2	0		
年齢	平均 83.95 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・クリニックコスモス長野 ・山岸歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長野ICから車で10分、国道18号線の川中島古戦場信号近くにホームがある。平成18年にオープンしたホームは真新しく、2階建ての2ユニットに18名の入居者が暮らしている。道路を隔てて同じ医療法人の老人保健施設があり、それを中心に介護保険対応の併設の事業所が7ヶ所ある。ホーム訪問の際に出迎えてくれた入居者・職員の笑顔からにじみ出る雰囲気は和やかであり、日常生活でも入居者個々の培った得意分野を發揮できる場面作りがされている。訪問調査時には美味しい餃子・おやきが入居者全員の協力で出来上がった。入居者が職員を信頼し、職員は人生の先輩として入居者に尊敬の念で接している様子が窺え、互いに支えあう質の高いケアが提供されていることを感じた。家族の信頼度も高い。入居者のお孫さんがボランティアとして食事作りに参加することもあり、地域や家族の中にホームはしっかりと根づいている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	熱心に取り組んでおり、前回の評価では特に改善課題はなかった。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 評価は職員全員で行い、自己評価後は浮かび上がった課題を検討する時間を十分設け、即取組み、職員の意識向上に繋げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月に1回行われ出席者から活発な意見を聞き、出来ることから実践している。一人の委員から在宅の高齢者が施設入所となり飼っていた犬を介護に行っていたヘルパーさんが面倒見ていると発言があり、早速ホームで引き取り、今は入居者のマスコットの存在で癒しになっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	施設側から沢山の写真が掲載されたお便りと入居者個々の生活記録及び金銭報告が家族に送付されている。また家族も他の兄弟にファクス等をして情報を共有している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地元の小学校・保育園との交流やホーム独自の夏祭り・運動会・焼き芋大会への地域の方々の参加、散歩途中での近所の方との会話からお米・季節の野菜・花を頂くなど地域の人々との双方向の係りが深まりつつある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着したホームを目指し、住み慣れた地域生活での継続支援、機能訓練等独自の理念を掲げている。	○	理念は良く出来ているが長文である。誰でもすぐ覚えられるようにコンパクトにまとめられれば尚一層分かり易いと思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内、スタッフルームに掲示しており、カンファレンス等の話し合いの機会も含め職員は常に確認し具体的な支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	田園地帯の真ん中という場所柄、隣とは離れているが、地区の人々とは散歩の途中で話したりしている。法人本部のある自治会の協力を得て、ホーム主催の行事に地域の方を呼んだり、地域行事に参加し双方向の交流を深めている。小学校や保育園の行事にも招待され、小学生、保育園児との交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価提出までに時間を十二分にとり、各項目について職員全員で取りかかり、自己評価を行った。その過程の中で気付きの得られた項目については即取り組み、職員全員の意思統一が図れた。		

グループホームコスモスさいなみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーから積極的な意見・要望等が出され、運営に反映されている。地域包括支援センターから意見を貰ったり、ある委員から地域の高齢者が施設に入所し犬の世話が出来ないとの情報を得て、その犬をホームで飼うようになり今は入居者の癒しになっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員としての参加やあんしん相談員の来所等により連携を深めている。また、市の実地指導を受ける等、連絡を密に取り、サービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム全体の様子が目で分るように写真もふんだんなホーム便りが毎月発行されている。月1回各入居者の生活記録も送付されている。送られた生活記録を離れた家族にファックスで知らせ、情報を共有している例もあるという。家族の来訪時に金銭出納帳を見ていただきサインを貰っているほか、収支報告書も3ヶ月に一度送付されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族から相談があり出来るだけ聞く姿勢を持ち対応したが、諸事情でホームとしては調整出来ない旨を話して了解して貰ったこともある。ご意見箱の設置をはじめ苦情受付簿の整備等、ホームとして苦情や不満を聞く姿勢は十分出来ており、運営に反映させる仕組みも確立されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人が複数事業所を運営しているため、やむを得ない定期的な人事異動や新規採用がある。異動はあるが最小限にとどめ、引き継ぎもスムーズに移行できるように配慮がされている。		

グループホームコスモスさいなみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修と内部研修があり、本人の希望を聞きながら研修等には積極的に参加できる仕組みがあり、職員の質の向上につながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度、長野圏域のグループホームネットワークに参加し交流をしている。それ以外にも他のグループホームを見学してサービスの向上のための努力をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望者にはホームに来てもらい案内しながら説明をし、入居者の方とお茶を飲みながらお話しして馴染んで貰うよう心がけている。本人や家族の立場に立って傾聴の姿勢をとり、初期からの信頼関係を築くことに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者個々の生活暦の中で培った得意分野を發揮できる場面作りがされている。訪問調査時には美味しい餃子・おやきが入居者全員の協力で出来上がった。ボランティアや職員も入居者の方から生活の知恵をたくさんいただいている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が今までの生活の延長が出来るよう希望を聞いたり、日々の生活の中で本人の思いをくみ取るなど本人本位に検討している。各入居者に合わせ、生活を支えるための工夫を凝らしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各入居者の担当スタッフが中心になってアセスメントし、家族・本人の意向に沿ったケアプランを職員全体で検討・作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1階は2ヶ月間は毎月その後は3ヶ月に一度見直ししている。2階は3ヶ月間は毎月、そのあとは3ヶ月に一度見直ししている。状態に変化が生じた時はその都度本人・家族の意向を聞きながら見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の事業所が連携協働しているので大勢で外出する時は隣接デイケアから大型車を借り、外来受診時にはリフト車で出かけるなど臨機に対応できている。また本人や家族の希望により、施設への移動や在宅に向けて居宅事業所の紹介もしている。		

グループホームコスモスさいなみ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じかかりつけ医の受診を行っている。また主治医の指示で専門医を紹介・受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた指針があり取り組んでいる。家族にも説明しているが、本人の気持や家族の意向を聞いて内容を整備し、家族に提示し、同意を得るような方向で取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの生活暦を熟知しその上で対応している。訪問調査時の言葉がけもさりげなく、優しかった。プライバシーの保護及び個人情報の取り扱いについては、入居時に家族に説明がされ同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりを大切に本人のペースに合わせた支援をしている。ホームとしての一日の予定もあるが、それを押し付けるのではなく、本人の意向に沿って支援している。		

グループホームコスモスさいなみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問調査時の食事づくりは全員参加で楽しげであった。各入居者には役割があり、率先して行っていた。ホームの畑で取れた野菜を使ったり、入居者が得意な料理をメニューに取り入れ、職員と共に調理している。便秘にならないように食物繊維を多めにとるなどの配慮もされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂を喜んでいる方が多く、入浴を拒む人はいない。浴槽が大きく2人～3人は入れるので、気のあった同士が一緒に入ることもある。夜の入浴も試みたということであったが現状の夕方の状態がベストのようである。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の散歩や月1～2回のドライブ、テラスでおしゃべりを楽しみながら食事をしたりお茶を飲む、花を見たり植えたりなど、入居者と相談しながら気分転換を図っている。得意の餃子作りやおやき作り等は生甲斐にも繋がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園まで散歩したり、職員と一緒にバイパス沿いにある近くの大型店へ買い物に出かけ楽しんでいる。ホームの畑での野菜の収穫、花壇の水くれなど戸外に出ることで日の光を浴びたり外気にふれるような支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外、表の玄関は開いている。やむを得ない場合を除き、基本的には見守りと声かけで対処している。職員も弊害については十分理解しており、自己評価でも鍵をかけない工夫を適宜行っていることが窺えた。		

グループホームコスモスさいなみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。消火器の使い方訓練は職員全員が行なっている。その際には地元の消防団の協力を得ている。緊急連絡網訓練は抜き打ちに何回も行い、不測の事態に備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士のもとにカロリー計算が行われ、ホームとしても水分確保に気をつけている。夜間にも本人の希望によりお茶が用意されている。風邪の予防にビタミン剤を昼食後全員で吞んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・食堂には季節の花が飾られ、行事の写真や入居者の写真もはられ、作品の展示もされている。ホームで引き取った犬（茶々）は皆に可愛がられて入居者の癒しになっている。またトイレは広く車椅子にも対応出来ている。居室の前にある暖簾は本人の好みの色や柄で一目で自分の部屋と分かるように工夫されている。お風呂も広く、転倒しないよう配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の若かりし頃の写真が飾られており、仏壇のある居室には入居者の亡夫の位牌・写真がある。本人にとって居心地が良く過ごせるように各居室それぞれに工夫が施されていた。		

※  は、重点項目。